

第5回小美玉発!『スター☆なりきり歌謡ショー』出演希望申込書

※申込書にご記入のうえ下記の宛先まで郵送、または小川文化センター(アピオス)まで直接お持ちください。
 ※申込者の方には、応募締切後にオーディション当日の詳細をお知らせいたします。
 ※オーディションの際に使う音源は、通信カラオケシステムで行いますが、歌詞表示モニターはありません。
 (オーディションは1コーラス歌っていただきます。マイクは5本までご用意できます。)
 ※本番(3/23)で応援してくれる観客を30人集めてください。座席エリア(全席指定)については後日抽選します。
 ※写真を必ず添付してください。参加形態が2人以上の場合は、1人1枚ずつ提出をお願いします。

歌手名		曲名	
参加形態		個人 ・ 2人組 ・ 複数(人)	
ふりがな		性別	
氏名		男 ・ 女	
ふりがな		写真貼付	
住所			
電話番号 携帯電話		Eメール or 携帯メール	
生年月日 (年齢)		職業	
TEL: - - 携帯: - -		所属団体など	
年 月 日(歳)		※学生の場合【学校名・学部・学科】をご記入ください	
自己紹介・プロフィール・経歴など (舞台などの経験がある方はそのこともお書きください)		応募の動機や、この「スター☆なりきり歌謡ショー」に対する 意気込みなど、ご自由にお書きください	
		※合唱やカラオケ等の団体に所属している方は ご記入ください	

〒311-3423

茨城県小美玉市小川225番地 小川文化センター(アピオス)『スター☆なりきり歌謡ショー』出演者募集係
 TEL:0299-58-0921 FAX:0299-58-0923 (受付時間9:00~17:15) 休館日:月曜日



【アピオス ミニコラム vol.01】

「スター☆なりきり歌謡ショー」物語

『地域を巻き込み、夢を応援』



わ

たしには高校3年生になる娘がいる。小さい頃から明るく元気で、特に歌うことが大好きだった。しかし、高校に入ると家に戻ってくるのも遅くなり、心配する日々が続いた。心配する日々が続いた。その心配からくる不安で「あんた、夜遅くまで何やってるの?」「進路はどうすんの?」と怒りをぶつけることも多かった。そんなある日、彼女が真剣な面持ちでわたしにこう言った。「わたし、これに出てみたいの。将来のために!」彼女の手にはあるチラシが。地区の回覧板で回ってきたものらしい。「スター☆なりきり?」「お母さんあたしね、シンガーソングライターになりたいの。歌うことが大好きなのは知っていたが、まさか歌手になるのが夢だったとは。初耳だった。わたしは悩んだ。彼女には普通の人生を送って、普通に幸せになってほしい。とりあえず「やってみなさい」とは答えたものの、心のうちのモヤモヤは残ったままだった。それから数日後、駅前のスーパーへ買い物に行った帰りのとき、駅前のロータリーであぐらをかいてギターをかき鳴らす少女がいた。彼女だった。帰りが遅い理由はこれだったのか。気づかれない距離まで近づき、その歌声を聴いてみた。その瞬間、わたしのモヤモヤが溶けていった。その日からわたしはあるものを作り始めた。それは衣裳。オーディション当日、これ着て、精一杯やってみなさい。そう言われて衣裳を渡すと、彼女の目には涙が、ありがと、お母さん。彼女も不安だったのだ。母であるわたしが応援しなまき誰か応援するんだ、悩んでいた自分が情けない、彼女はとうとう、アピオスの大きなステージに緊張していたようだが、オーディションにはなんと合格。そして、秋元順子「愛のままで」の作詞・作曲・編曲を全て手掛けた花岡優平先生の歌唱指導を受け、みるみるうちに成長していった。彼女が練習に励んでいる間、わたしは彼女のためにできることをした。それは応援団の人集め。この「スター☆なりきり歌謡ショー」は、応援も審査の内に入るらしい。わたしは親戚・近所の方たち、彼女の同級生など、あらゆるところに声を掛けた。彼女には内緒で応援グッズを買って集まってくれた方たちと何度も応援の練習をした。いつの間にか、娘のためにわたしの住む地域が一丸となっていた。そして、いよいよ本番。娘の顔はプロのメイクさんのおかげで別人のよう(笑)。こんな大きなステージでプロのバンドを浴びて歌う彼女は、まさにスターだった。未来の彼女の姿を垣間見ることができた。惜しくもグループは逃したが、公演終了後のお客様見送りのとき、彼女は満面の笑みを見せてくれた。彼女と談笑していると、彼女が声をかけてきた男性がいた。私たちが住む地区の区長さんだった。「今度、地元のお祭りとかで歌つてよ。」「はい、ぜひ!」彼女は嬉しそうに答えていた。応援してくださった地域の皆さんの恩返しになる!とわたしも心から喜んだ。アピオスがスタート地点となったスターへの道。道は長く、ゴールはまだ見えないけれど、彼女は大きな一歩を踏み出した。 ※この物語は事実を元にしたフィクションです。